

# 2011 年植林作業報告



以下のように、植林作業を実施したことを報告します。

## ・植林作業実施概況

植林実施日	2011年5月14日～5月20日及び10月中旬（春季：45ha、秋季：25ha）			
植林場所	モンゴル国セレンゲ県ホタカウンドゥル周辺			
支援企業 &団体 本数・面積	トライウォール株式会社	エコフィン生命の森	約 30000 本	約 10ha
	株式会社 KSG インターナショナル	GNC 共存の森	約 30000 本	約 10ha
	SOTO 禅インターナショナル	GNC 共存の森	約 25000 本	約 10ha
	ラウル株式会社	GNC 共存の森	約 25000 本	約 10ha
	エコフィン特約店葬儀社	生命の森	約 37000 本	約 15ha
	緑の募金	日・モ友好の森	約 25000 本	約 10ha
	GNC（グリムス含む）	GNC 共存の森	約 10000 本	約 5ha
樹種	ヨーロッパアカマツ <i>Pinus sylvestris</i> （在来種）の2年生苗			
植林作業	ジャムスレン（セレンゲ県森林野生動物センター） ツォゴー（GNC Mongolia スタッフ） 国境警備隊員など約 30 名他			



写真 1. 植林時の状況



写真 2. 植林時の状況

Цэг	Y	X
1	50 11 36.90	106 54 20.20
2	50 12 11.40	106 54 8.10
3	50 12 9.60	106 54 13.20
4	50 11 54.10	106 54 41.50
5	50 11 38.40	106 54 47.40
6	50 11 37.00	106 54 57.70
7	50 11 20.38	106 55 9.33
8	50 11 23.80	106 54 46.70

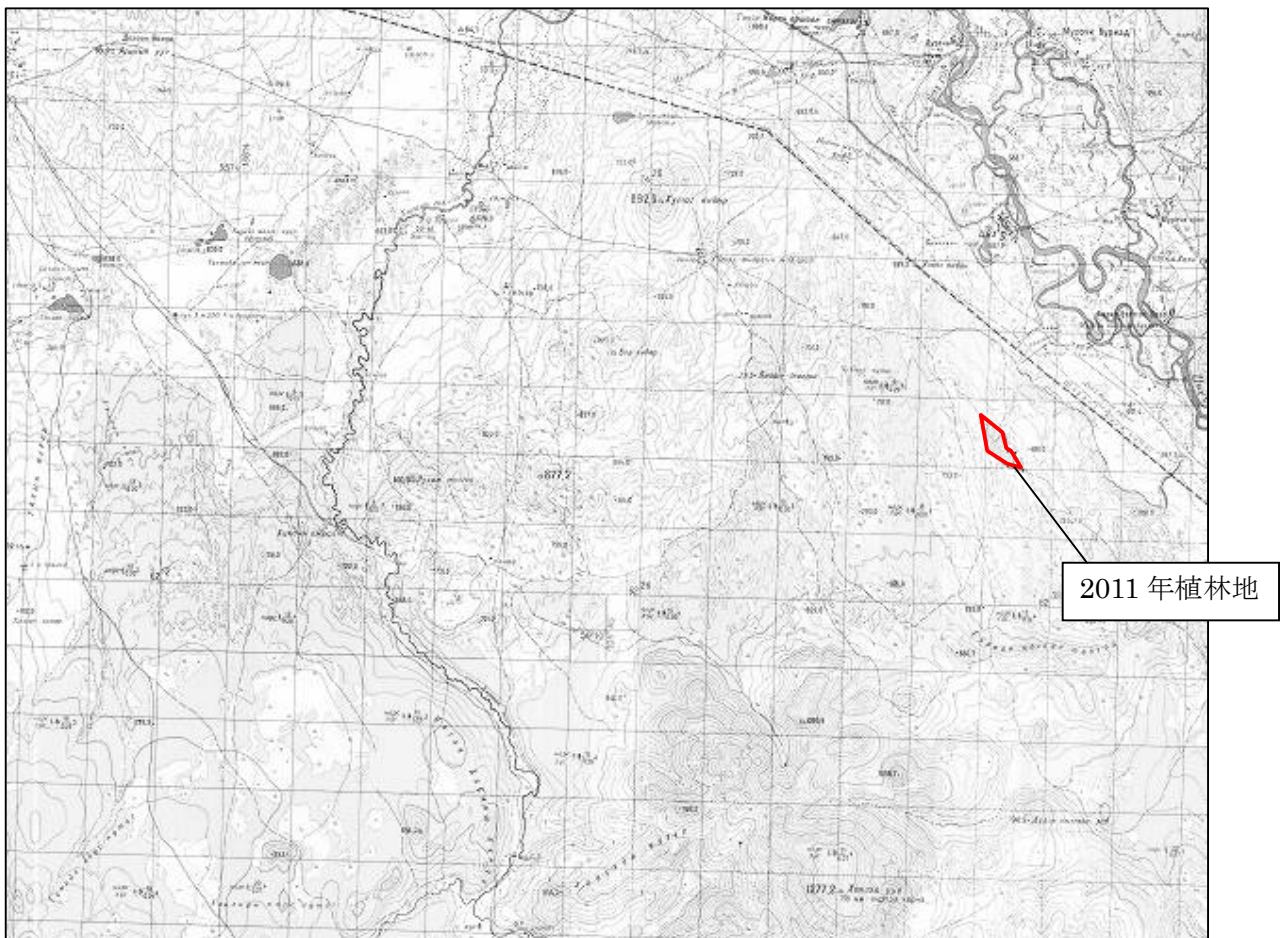
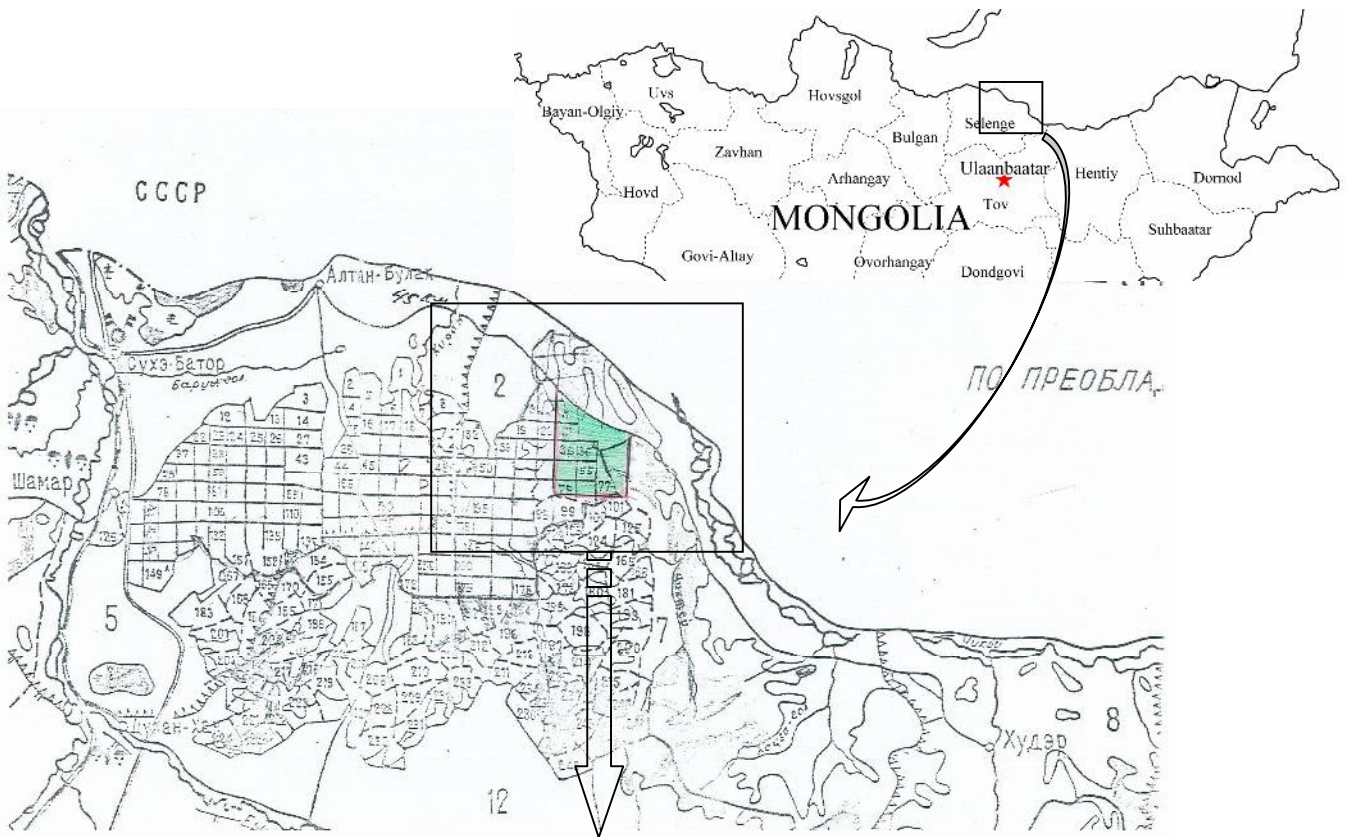
Талбайн хэмжээ: 70 га

2011 年植林地の緯度経度



写真 3. 植林作業を手伝っていただいた方々の集合写真

・ 植林場所



2011年植林地位置図（ホタカウンドウル）

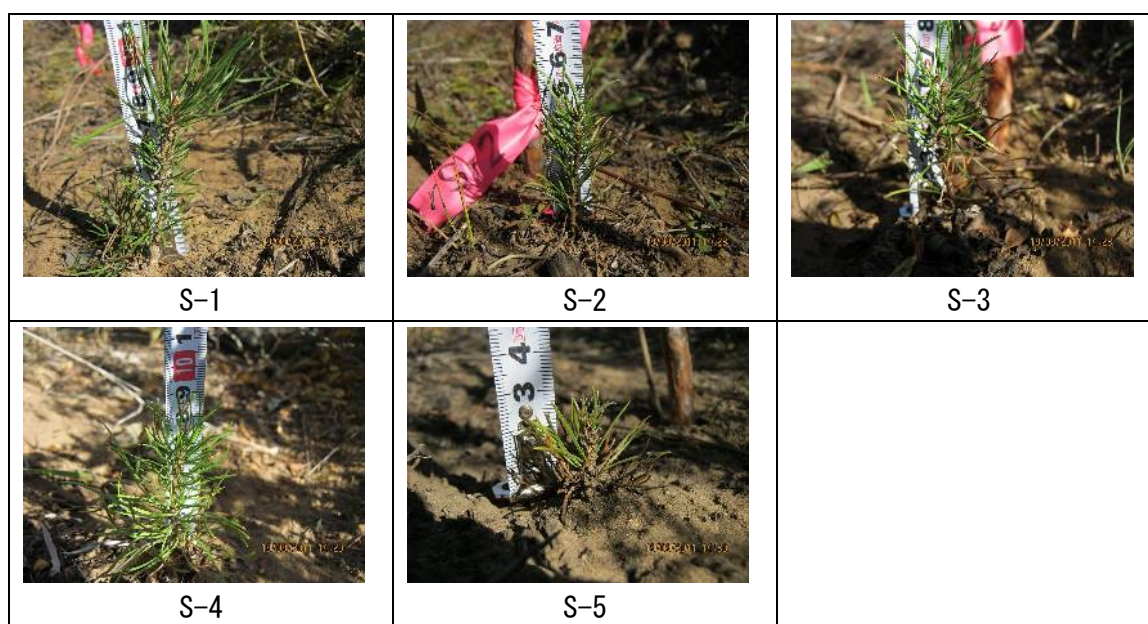
・ 2011年植林地の概況報告

ホタカウンドゥルは、国境の町アルタンボラグ村より約60km 東方に位置し、植林地周辺では畑作地が隣接しているものの、家畜の放牧は全く行われておらず、住民も居住していない場所である。

本年の植林地は2008年春季に植林した箇所と一部重複する。2009年6月の林野火災によって焼失したためである。草勢が強いため、植林前に植え溝を掘って植え付けを行った。土壌は砂質から壤土で保水性が良好、植生はイネ科やキク科の下層植生が密生、草丈の長いものは秋に1m程に達しているものも見られる。10年程前は林地であったが、森林火災や伐採により草地化が徐々に進んでおり、植林による木本植生被覆と山火事対策が急務である。秋の時点ではアカマツの活着は不良ではなかったため来年の春から夏にかけての雨量次第で良好な成長が見込まれる。

・ 植林後の状況

2011年9月中旬の現地調査により、2011年春夏季は十分な降雨があり、活着・成長ともに良好であることが確認された。以下に調査を実施したサンプル植林木の一部を示す。



植林苗の状況

・ 森林火災対策

万一、林野火災が発生した場合に延焼が止まらないことを想定し、植林地の外周に火災の侵入を防ぐための無植生帯（防火帯）を造成した。防火帯は火災の延焼に一定の効果が期待できるとされているが、防火帯による対策はいわば応急処置であるため、森林管理の面では不十分である。

このため、GNCは森林火災対策としてセレンゲ県森林局やアルタンボラグ村、地域住民、国境警備隊などが横のつながりをもって林野火災



防火帯造成の状況（2011年植林地）

に対処できるように、火災危険期の巡視体制・初期消火体制を構築することを目標に林野火災対策事業を進めており、各関係機関と協議を重ねている。

・ 2012 年の植林について

GNCは植林事業と森林火災対策事業を両立させるため、首都の森林省やセレンゲ県の森林局などと協議を重ねている。

植林事業については2012年も例年通り実施するが、場所について現在のところ未定であり、3月以降にセレンゲ県森林局の協力のもと、数百ヘクタール規模の植林適地を確保する計画である。セレンゲ県ではおよそ210,000haの植林すべき土地があることに比べればわずかに一部に過ぎない。

森林火災については法律が整備されているものの現場では機能していないのは、縦割りの社会のため地域毎の責任・役割分担にまで具体策が作られておらず、一向に脆弱な体制で毎年春を迎えていたためである。このためGNCが仲持ちとなり、各関係機関との協議の場を設定し、火災対策の役割分担やその実施方策について具体化していく方針である。

・ 種子採取について

GNCは来春の苗木確保のため種子採取作業を行った。アカマツ種子の豊凶は年毎に違うが今シーズンは豊作で結実も良好であった。



アカマツ種子採取状況



植林地写真 (SOTO ZEN)